

JAPAN 369

CLASS 233

遠心力分離器

特 願 昭 40-13976
 出 願 日 昭 40.3.12
 発 明 者 出願人に同じ
 出 願 人 伊藤洋一郎
 大阪市東住吉区西鷹合町1の28
 代 理 人 弁理士 北村宇吉 外1名

図面の簡単な説明

図面は本発明実施の一例を示すもので、第1図は本器の截断側面図、第2図はその運動関係を示す平面図である。

発明の詳細な説明

本発明は処理流体を容れた容器を回転体に取着け、回転体の公転と同時に容器に自転を与えるようとした遠心力分離器に係るもので、回転盤の上面にその中心にこれと別個に設けた歯車に係合させて数個の歯車を配設し、これらに連動して低回転せしめられる回転体に可撓管から成る流体容器を着脱自在に取着けて成る。

本発明実施の一例を図面について説明する。1は台板2上に設け、モーター3に直結して急回転せられる回転盤で、台板2に取着けた複盤4から回転盤1の上面中心に向つて歯車5を突設し、回転盤1上面にその外周に配設した歯車6をこれにかみ合せ、歯車6の軸7に取着けた小歯車8をその外側に設けた歯車9にかみ合せ、その軸10にモーター3に比して極めて低速回転を与えるようにし、軸10に回転体11を取着け、その外周に被処理流体を容れた可撓性の長尺管12を螺旋状に

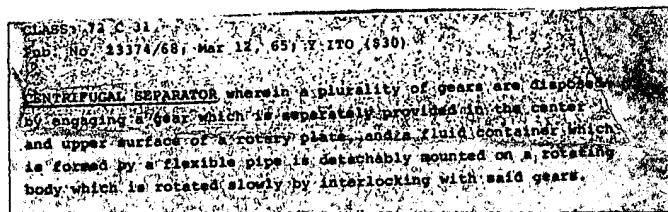
まいて着脱し得るように取着けるようにした。かくてモーター3が台盤1を伴つて回転するとき、その上面中心に突設した固定歯車5にかみあつた台盤1上の歯車6が連動し更に歯車8,9を介して回転体12に極めて低速の回転を与え、これに取着けた長尺管12内の流体には遠心力が加えられると同時に管12内に於て振子様の運動を繰り返しつつ螺旋に沿つて良好な沈降が行なわれるようとした。而して歯車5は固定する代りにその軸13を任意の駆動体14に連結し、その駆動体14に互に逆方向の回転を与えることにより、歯車5を歯車6と同方向又は逆方向に回転するときは、回転体11に伝達する回転速度を加減して調節することができる。

かくて本発明によるときは螺旋状の長尺管12内の流体に遠心力と自転による振子運動が加えられることによつて良好な沈降が行なわれるもので回転盤の回転から回転体の自転を歯車で伝達するようにして、その回転速度と自転速度との関係が極めて容易に調節し得ることにより、流体の性状に従つて適当な速度を選択することができ常に良好な沈降を得ることができることの効果を有する。

而して長尺管12は可撓性の材料を使用することにより、沈降後その任意個所で結さつし、切断することにより完全且容易に沈降物を取出すことができる。

特許請求の範囲

1 回転盤の上面に、その中心にこれと別個に設けた歯車に係合させて数個の歯車を配設し、これらに連動して低回転せしめられる回転体に可撓管から成る流体容器を着脱自在に取着けて成る遠心力分離器。



494-33

AU 242 46810

JE 0023374

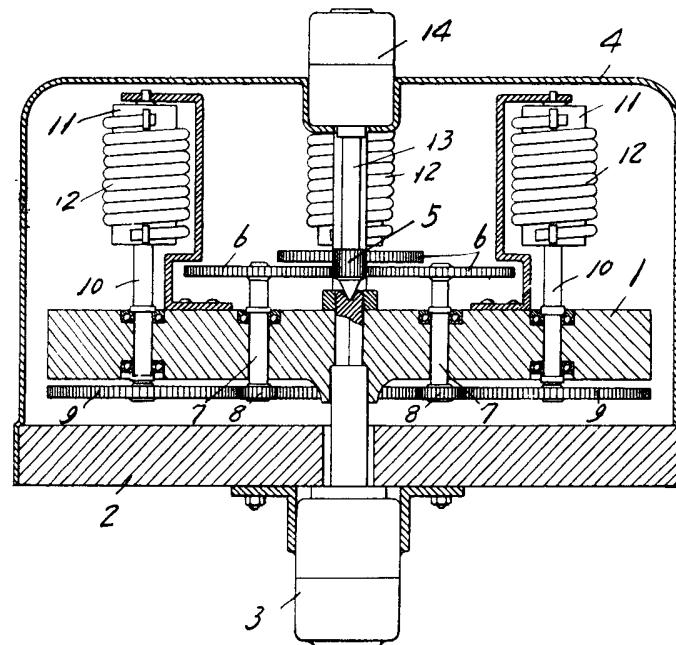
OCT 1968

特公 昭 43-23374

E-10-1968

12

第1図



12

第2図

